一　言　メ　モ

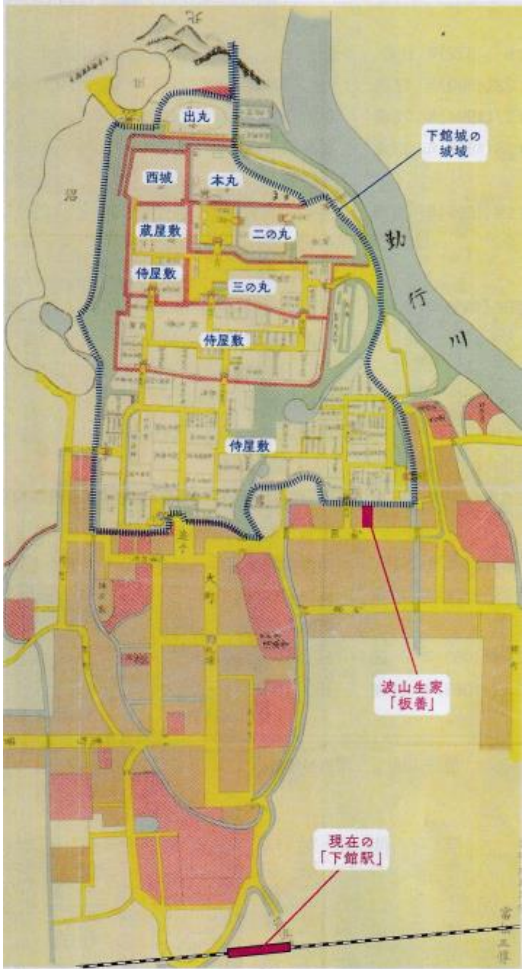
（e-moshicom、大人の休日倶楽部 2022 年 10 月号より引用）

近代陶芸の先駆者 「板谷波山（いたやはざん）」と ふるさと茨城（下舘）

町人文化が花咲く城下町

戦国時代に水谷（みずのや）氏が城を築いて以来、城下町として、また江戸時代には木綿を扱う商都として栄えた下舘。

板谷家本家もそのひとつ。分家した波山の家は醤油醸造業や雑貨商を営み、下舘藩の御用商人を務めた町の主導的な商家だった。波山の父・増太郎は、家業のかたわら、文墨に親しむ趣味人で、波山は幼児の頃から陶器や諸道具に接する機会が多かったようだ。そんな町の歴史と賑わいを肌で感じながら、波山は育った。人々の往来が絶えない下舘の町には、おもてなし文化が根付き、多くの文人墨客が訪れた。与謝蕪村が逗留し、板谷家にも越後の南画家・富川大塊が滞在。明治期には洋画家・青木繁なども足跡を残している。



下舘城は明治２年廃城になった。
「慶応三年下舘城下町絵図」

上羽黒神社：下館城の天門（北西）にあたる岡芹の羽黒神社。本宮（中央）の下羽黒神社に対し、上羽黒神社と呼ばれています。

下館城跡：下館城は初代　水谷勝氏によって築かれ、3代勝之の時に完成した城で、現在の下館小学校敷地が城の中心でした。城跡には水谷氏が高梁に移封された後この地を治めた石川氏によって建立された八幡神社や明治維新の先駆けとなった澁谷伊予作の顕彰碑があります。

板谷波山記念館：陶芸家として初の文化勲章を受章した板谷波山の生家敷地内に経つ記念館。館内には生家や貴重な作品、資料、遺品などと共に東京田端の工房から移築復元された陶芸窯を見ることが出来ます。